

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.852 2025

2025年12月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



「もやい」の食糧配布を体験するYMCAのステップII研究生たち

OPINION

すぐそばにある「貧困」

——YMCA管理職研修「ステップII」講義より——

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長

内閣府孤独・孤立対策推進室参与 大西 連

私が「貧困問題」に関わり始めたのは2010年。友人に誘われて、炊き出しのボランティアに参加したことがきっかけでした。それから15年。現在は「自立生活サポートセンター・もやい」の理事長として、貧困に苦しむ数千人の方々の相談を受けています。

炊き出しを求めてくる「ホームレス」といっても、今は路上生活者だけではありません。ネットカフェで寝泊まりするスーツ姿の人なども増えています。若者や女性も多い。事情は千差万別ですが、たとえば虐待やDVなどで家を出て、非正規雇用で働き始めたものの、不安定な就労環境で長続きせず、失業し、住居も失う。頑張ってもどうにもならず、社会から取り残されていく人たちがいます。

それは、東日本大震災でも同じでした。私は被災地で支援活動をしたのですが、そこでもまた、自力で生活再建できない人が取り残されていく様子を目の当たりにしました。——日本のセーフティーネットはこれなのか？—— 以来私は「貧困を社会的に解決する」ことを目指して、この問題に取り組んでいます。

今、日本の相対的貧困率は15%。約7人に1人と、諸外国に比べても高い水準です。原因の一つは、非正規雇用の増加です。東京都の最低賃金は時給1,226円。フルタイムで働いても月約20万円。社会保険料4~5万、家賃5~6万を払えば生活はギリギリです。「シフトが減った」「病気になった」となれば即、貧困に陥ってしまう。こういう慢性的な低所得者が増えています。リーマンショック以来、雇用を守ってこなかった社会の現状です。高齢者の低所得も深刻です。低年金、無年金、無貯蓄層が増え、2035年には高齢世帯の約3割、562万世帯が生活保護基準を下回ると予測されています。

もはやこれは社会構造の問題であり、個人の努力だけで解決できる次元ではありません。

にもかかわらず貧困問題は、個人の「自己責任」とされ、社会構造の問題とみなされない傾向があります。「真面目に働いてきた自分とは関係がない」と思ってる人が多い。生活保護へのバッシングも根強い。しかし生活保護は「最後のセーフティーネット」と言われる社会保障制度です。頑張った人だけに与えられる報酬ではない。努力の対価でもなく、恩恵でもありません。憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」を守るための制度であり、理由を問わずに認められるべき生存権です。

この活動をしていると、いろいろな人に会います。中には支援物資を盗んだ人もいました。だからといって私は、その人たちを支援対象から除外して、刑務所か病院しか行き場がないほど追い詰めていく社会を良いとは思えません。誰だって失敗はある。「自己責任」と言われて言い返せる人が、どれだけいるでしょうか。

「つながりの貧困」という言葉があります。貧困は経済的な問題だけでなく、孤立・孤独の問題とセットになった時に生じるものです。失業や病気などで経済的なリスクに直面しても、頼れる先があれば何とかすることもある。炊き出しに訪れるのは、頼れる家族も相談相手もない方々です。

私たちの団体では食糧配布や生活相談のほかに、居場所作りのためのカフェや、農業体験、こども食堂など、社会的孤立状態を解消するための事業も展開しています。また、そこで出会った人たちの声を社会提言（アドボカシー）として発信することにも力を入れています。いろいろな人と出会えば、いろんな困りごとが見えてくる。社会保障制度の網目からこぼれてしまったニーズがたくさんあります。それを切り捨てずに受け止め、制度を改善し、社会を変えていく必要があります。

孤立・孤独な無縁社会を克服し、つながりあい、支え合う社会をどう作っていくか。貧困問題の解決に欠かせない視点です。

（まとめ・編集部）

ウェルビーイングをめざして「心に帆を揚げて」 第56回全国YMCAリーダー研修会

「第56回全国YMCAリーダー研修会」が10月10～13日、YMCA阿南国際海洋センター（徳島県）で開催され、全国20のYMCAから約90人が参加しました。今年の主管は大阪YMCA。実行委員長の小島怜さん（レモンリーダー）と担当職員の切通菜摘さんにお話を聞きました。

今年のテーマは「Set Sail ～心に帆を揚げて～」。実行委員がたくさん悩んで話し合っ考えたテーマです。キーワードは「ウェルビーイング」。私たちの幸せとは？ 幸せな社会とは？ そのためには何ができるだろう？ 全国の仲間と一緒に考え、それぞれのウェルビーイングへ向かって“帆を揚げて”いく。そんな出航準備となる会をめざしました。

1日目は美鳥佳介さん（大阪YMCAリーダー OB／麒麟ホールディングス株式会社）の基調講演で、ウェルビーイングとは何か、自分にとっての幸せとは何か？を考えました。2日目は菅原萌子さん（NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン）を講師に、子どものウェルビーイングや子どもの人権について学びました。これらをもとに3日間、各グループでウェルビーイングを高めるために必要な「コンピテンシー（非認知能力）」を考え、マンダラチャートにして書き出しました。

私のグループは、YMCAの中に子どもたちがウェルビーイングを実感できる居場所を作りたいと考えました。子どもがあらのままにいられる場所。自由を感じられて、意見やアイデアが出しやすく、意欲がわいてくるような場所。そのためには「創造性」「好奇心」「コミュニケーション力」「自己



肯定感」などが必要と考えて、マンダラを作りました。ほかのグループからは、子どもたちの感情や個性を活かしたプログラム作りなど、日々の活動で活かしたい提案がありました。

研修では、カヤックやカヌーなどの実技トレーニングや、スタンプ大会や阿波踊りなどの楽しいアクティビティも満載。まさに「ウェルビーイング」を実感できる3日間になりました。最終日は別れを惜しみながらも、堂々と「出航」することができました。

格差を乗り越え、共に成長を ～YMCAの支援プログラム

貧困問題が子どもの体験格差を生みだしている現状を受けて（＝1面）、各地のYMCAでも取り組みが広がっています。

参加費補助制度

ぐんまYMCA ポジティブネットこども基金

経済的理由により、YMCAのキャンプや特別支援プログラム等に参加できない子どもたちに、費用の一部または全額を補助しています。この基金は、個人や学校・企業・団体からの寄附によるもので、毎年多くの子どもたちが利用しています。保護者からは、「“ひとり親”になってから家族旅行ができないので、貴重な経験になりました」「今も家でキャンプソングを歌っている我が子を見ると、楽しい思い出ができたんだと、幸せな気持ちになります」など、たくさんの感想が寄せられています。（ぐんまYMCA 村上 祐介）



●主な実施YMCA ＊名称や制度の内容は、各地によって異なります。
茨城YMCA／東京YMCA／横浜YMCA／名古屋YMCA／京都YMCA／神戸YMCA／YMCAせとうち／熊本YMCA ほか

子ども食堂

とちぎYMCA つぼみ食堂

YMCAの高校生グループ「つぼみ」の発案で、2022年に始まった食堂です。「貧困」に限定せず、地域の団らんの場として年に8回開催。近隣の小中学生とその保護者など、幅広い方が楽しみに利用されています。食材の提供は「フードバンクうつつのみや」ほか地域の飲食店からご寄附いただいています。カレーや餃子、ジャージャー麺など、高校生の手作り食堂は人気で、先日はラジオでも紹介されました。高校生ならではの楽しい食堂で、地域に顔の見える関係を作り、子どもの孤立・孤食を防ぐことを目指しています。（とちぎYMCA 川口 夏菜子）



●主な実施YMCA ＊行政との協働事業、YMCAこども園内での取り組みなど
横浜YMCA（東とつか保育園、オペリン保育園、豊岡もぐもぐ食堂ほか）／東京YMCA／広島YMCA ほか

フードパントリー／フードドライブ

東京YMCA フードパントリー

コロナ禍の2020年、江東区内のひとり親世帯を対象に食品の無料配布（フードパントリー）を始めました。その後ニーズは増え続け、2023年からは対象枠を、生活にお困りの世帯全般に拡げました。お米や缶詰、調味料、菓子類など、配布する食品は企業や個人から寄附いただき、会員やスタッフが仕分け作業をしています。中には毎月募金をくださる方もいます。多くの方の心が詰まった大きな袋。それを喜んで持ち帰る方々。そんな光景を見ると、微力でも継続しなければと感じます。（東京YMCA 沖利柯）



●主な実施YMCA
地域のフードバンクに寄附する「フードドライブ」など、さまざまな取り組みが行われています。茨城YMCA／埼玉YMCA／横浜YMCA／山梨YMCA／広島YMCA ほか

学習支援／居場所

鎌倉YMCA スタディサポートかまくら

鎌倉市からの受託事業として、子どもの無料学習支援と居場所の提供をしています。週2回、YMCAのスタッフや学生ボランティアが個別に学習をサポートしているほか、保護者との面談もしています。生活困窮世帯等では進学・卒業をあきらめやすいですが、高校進学・卒業を支援することで、社会的自立を促し、貧困の連鎖を防ぐことを目指しています。（鎌倉YMCA 水出 大河）



●主な実施YMCA
熊本YMCA／茨城YMCA／日本YMCA同盟Amazon協働プロジェクト ほか

詳細はお近くのYMCAにお尋ねください。ご支援ご協力をお願いします。